

Close Up クローズアップ 教育機器

コンパクトで装備を充実させた 新型 Honda ドライビングシミュレーター

Honda ドライビングシミュレーター（以下、シミュレーター）は、実際の交通状況を想定した仮想空間で潜在的な危険を安全に体験できる安全運転教育機器として開発され、2001年の発売以来、多くの自動車教習所や研究機関で活用されている。そして今年4月、このシミュレーターをリニューアルした。

実車相当の操作を学べる 充実した装備

新型シミュレーターは従来型に比べコンパクトになったが、装備を充実させ、さらに効果的な学習が可能になった。シミュレーション画像などを投影する本体ディスプレイは43型フルHDの液晶モニターを3台設置することで、立体感のある映像を表現。ステアリングやシートなどは実車相当の部品が使われているため、実際のクルマに乗っているような感覚で危険を安全に学ぶことができる。近年、数多くのクルマに採用されているプッシュ式のエンジンスタート&ストップシステムや電動パーキングブレーキ（EPB）を導入。また、速度メーターのデジタル表示化を採用し、運転者が自ら速度を認識しやすくなった。

路上教習では体験できない 場面で経験できる

新型のシミュレーターには第一種普通免許（計20コース）に加え、第二種普通/大型免許（計18コース）、第一種大型/中型免許（計17コース）を収録。各教習項目に合ったコースで、各々が危険を認識・納得し、実際の運転につなげることができる。さらに、「走行環境機能」「マルチアイシステム」「危険予測場面解説機能」（右記参照）などによって、受講者の指導内容のより深い理解と、安全意識の向上をサポートする

ための機能を備えている。

新型のシミュレーターを導入した自動車教習所の一つが麻生自動車学校（北海道札幌市）である。同校では、これまでもHondaのシミュレーターを活用していたが、新型が発売されたことで、6月より従来型と併せて運用を開始している。従来型が教習指導員や教習生に好評だったことから同様の機能を搭載している新型を引き続き使うことにし、同校副管理者で教習指導員の中田理さんはいふ。「メーターやスイッチ類など、最新のクルマの操作系が取り入れられているので、若い教習生の方は興味を持ってくれます。新型はコンパクトなので、スペースをとらないのもメリットだと感じています。その一方、モニターのサイズは大きくなったので視界が広がり、運転している感じが以前より向上したと思います」。

シミュレーター教習は路上教習での体験を補い、教習生に実際に道路を走行する時の見方や考え方を伝えることだと、中田さんはとらえている。「Hondaのシミュレーターはリアルな道路状況と危険場面が再現されていると思います。道路状況を雪道に設定することも可能なので、地域の特性に合わせた指導ができます。路上教習では体験できない場面も経験することにより、危険感受性を高めておくことは重要です」。Hondaは四輪だけでなく、ほかにも二輪や自転車のシミュレーターも販売し、幅広いモビリティの運転者を対象に危険予測能力と安全意識の向上を図っている。



麻生自動車学校に導入された新型シミュレーター



43型フルHDの液晶モニター3台で立体感のある映像を表現。ステアリングは実車相当のものを採用（エアバック用のガス発生剤は取り外している）



外形寸法（操作モニター除く）幅2344mm 奥行1854mm 高さ1281mm



シートは前後・高さの調整が可能（シートベルト実装）



電動パーキングブレーキ（EPB）



プッシュ式のエンジンスタート&ストップシステム



速度メーターをデジタル表示したメーターパネル

走行環境機能

「走る・曲がる・止まる」リアルワールドに潜む危険を多彩な走行環境機能で表現（走行中任意のタイミングで切替可能）



昼



霧



夜

マルチアイシステム

混合交通での危険予測の重要性を学べるよう様々な視点から確認が可能



自転車視点モード



他車視点モード



バードモード



カメラモード

危険予測場面解説機能

危険場面の要点を解説するとともに、指導者が説明しやすいように安全ポイントを具体的に明示。事故の瞬間を動画で再現することもできる



解説画面



アドバイス画面



事故再生画面

Honda ドライビングシミュレーターに関するお問い合わせ先

本田技研工業（株）安全運転普及本部
〒350-1392 埼玉県狭山市新狭山 1-10-1 埼玉製作所狭山工場内
TEL:04-2955-5751(代表) FAX:04-2955-5749
営業時間 9:00 ~ 17:00（土日および年末/年始/夏季に休日）